

## 中間貯蔵の安全工事 保安規定認可を申請

リサイクル燃料貯蔵（むつ市、RFS）は28日、原子力規制委員会に、使用済み核燃料中間貯蔵施設の管理方法などについて事業者自らが定める「保安規定」の認可を申請した。今後予定している安全対策工事に関連する内容。

法律や関連規則の改正・制定に伴い、4月から新検査制度が始まっている。RFSは、施設の安全対策工事に着手する前に、工事に伴う保安規定の認可を受ける必要がある。提出した保安規定では、改正法を踏まえ、工事段階での施設の品質管理、社員教育に関する事項を盛り込んでいる。

RFSは併せて、作業時の管理などを定める保安規定（2013年3月申請）の認可申請を取り下げた。今後あらためて、申請する方針。（工藤洋平）

2020/7/29 東奥日報

中間貯蔵施設  
補正書9回目  
規制委にRFS

むつ市に使用済み核燃料の中間貯蔵施設を建設しているリサイクル燃料貯蔵（RFS）は27日、新規制基準の適合性審査を受けている原子力規制委員会に対し、事業変更許可申請書の補正書を提出した。補正は9回目。

補正は1250ページある申請書の550ページを修正するもの。規制委による安全審査は2月下旬の審査会合で事実上終了しているが、その後も審査会合が2回開かれ、計24カ所の指摘を受けていた。今回はそれらの指摘を踏まえた補正で、貯蔵建屋内に保管する放射性廃棄物を入れたドラム缶が津波によっても流出しない措置を講ずるなど、内容を明確化している。（伊東大治）

中間貯蔵施設  
記載不備修正し  
補正書を再提出  
規制委にRFS

使用済み核燃料中間貯蔵施設（むつ市）を運営するリサイクル燃料貯蔵（RFS）は27日、新規制基準への対応を網羅した補正申請書を原子力規制委員会に提出した。3月末提出の補正書で発覚した22項目の記載不備などを修正した。今後、規制委事務方の原子力規制庁が内容を精査し、事実上の合格証となる「審査書案」を取りまとめる見通し。

同施設を巡っては、2月の審査会合でいったん議論が終了したが、補正書の記載不備が見つかり、再び会合が開かれていた。補正は9回目で、完本版約1250ページのうち、修正したのは約550ページ。敷地への津波到来を想定し、▽施設内の低レベル放射性廃棄物を入れたドラム缶の漂流防止対策▽核燃料を収納する金属容器（キャスク）に漂流物が衝突した場合の容器の健全性などに関する記載を適正化した。

RFSは、安全対策工事に着手に必要な認可（設計認）終了後に確実な作業時期を示すとしつつ、「2021年度」を作業開始見込みに掲げている。（桑田友人）

中間貯蔵の事業変更  
規制委に補正再提出  
RFS

リサイクル燃料貯蔵（むつ市、RFS）は27日、使用済み核燃料中間貯蔵施設の事業変更許可申請書に関する一部補正を原子力規制委員会に再提出した。内容に問題がなければ、今後規制委が合格証に当たる審査書案を取りまとめる。

RFSは3月に、一連の審査内容を踏まえた一部補正を提出した。この補正について、規制委からの指摘を受け、申請書本文と添付書類との記載の整合性を取るなどして22項目を修正した。さらに①放射性廃棄物を保管するドラム缶が、津波で流出しないような措置を講ずること②津波漂流物の影響で、貯蔵している使用済み燃料のキャスク（金属容器）と架台の安全機能を損なう恐れがないこと③の2点を明確化した。

今回は、事業変更許可申請書約1250ページのうち、550ページを補正した。補正は9回目。（工藤洋平）

東通原発断層審査が終了  
「一歩前進」と評価  
東北電支店長

東北電力の岩淵伸一・執行役員青森支店長は29日、青森市のアップルパレス青森で定例会見を開き、同社の東通原発1号機（東通村）に関する原子力規制委員会の断層審査がおおむね終了したことについて「一歩前進」と評価した。

規制委は17日、焦点となっていた原発敷地内を通る一切の断層について「新たに震源として考慮すべき断層ではない」とする同社の主張を認め、敷地内・敷地周辺の断層審査をおおむね終えた。今後は、基準地震動（設計や安全確認の基準となる地震の揺れ）などの審議に論点が移る。

岩淵支店長は、現行600ページとしている基準地震動の見直しについて、プレート間地震や海洋プレート内地震、内陸地殻内地震などの説明が残っている点を挙げ「現時点で見直しは考えられない」との見解を示した。

一方、国の洋上風力「有望区域」に本県沖の日本海北側・南側が初めて選定されたことについては、つがる市・鯨ヶ沢町沖に計画されている洋上風力発電事業に同社が出資している点を紹介し、「より一層、事業化の可能性が高まった」と期待した。（安達一将）

東通原発1号機の審査  
状況などについて見解  
を述べる岩淵支店長

2020/7/30 デーリー東北

東通原発  
敷地周辺断層審査が終了  
規制委、東北電主張を了承

原子力規制委員会は17日、東北電力東通原発（東通村）の再稼働へ向けた審査会合を開いた。規制委審査チームは、一部が敷地内を通る一切の断層が、新たに震源として考慮すべき断層ではないとする東通の主張を了承。2014年6月の審査申請から6年超をかけた、敷地内や敷地周辺の断層審査がおおむね終了した。

重要施設の真下を通る断層審査が終了した後の18年夏から、一切の断層の活動性を巡る議論が本格的に始まった。東北電はボーリング調査を実施するなどデータを収集。審査チームは東北電の主張を認め、「地下深部につながっているような震源断層ではない」と判断した。

これまでの議論を踏まえ、敷地やその周辺で震源を考慮すべき断層は、下半島を南北に延びる横浜断層など12本となった。今後は横浜断層を中心に、基準地震動（設計や安全確認の基準となる地震の揺れ）の審議に論点が移る。東北電は現段階で基準地震動を600ページとしているが、審査チームは「変わってくる可能性がある」との見方を示した。（佐々木大輔）

大間  
原発反対活動の灯  
冊子発行でつなぐ  
今年音楽フェス中止

大間原発に反対し、毎年夏に大間町で開かれている音楽フェス「大MAGROCK」は今年中止。今年7月18日、19日に開催予定だったが、新型コロナウイルスにより人・物資の移動に支障が出ていることや、町民と参加者の安全を考慮し、4月に中止を決めた。

初回の冊子は県内外で反原発・反核燃運動に携わる人たちがコメントを寄せた。

実行委の中道雅史事務局長は「大間の歴史を紹介するなどバラエティーに富んだ誌面にしたい」と話した。（加藤景子）

大MAGROCK中止に  
合わせ実行委が発行した冊子

大MAGROCKは今年7月18日、19日に開催予定だったが、新型コロナウイルスにより人・物資の移動に支障が出ていることや、町民と参加者の安全を考慮し、4月に中止を決めた。

初回の冊子は県内外で反原発・反核燃運動に携わる人たちがコメントを寄せた。

実行委の中道雅史事務局長は「大間の歴史を紹介するなどバラエティーに富んだ誌面にしたい」と話した。（加藤景子）

2020/7/22 東奥日報

2020/7/30 東奥日報

# 「GOTO」巡りむつ市長が憂慮

むつ市の宮下宗一郎市長は13日、市の新型コロナウイルス感染症対策本部で、政府が予定する「GOTO キャンペーン」の観光割引に関し、「キャンペーンによって感染拡大に歯止めがかからなければ、これこそ政府による人災」と憂慮した。

## 「感染拡大すれば政府による人災」



市の対策本部会議後、会見する宮下市長

以降の旅行が対象となる。宮下市長は終了後の会見で、「感染は、人がウィルスを運んで拡大する。リスクの高い地域から人が来ることを推進すれば、確実に（感染者が）発生する。今までの我慢が全部水泡に帰す」と危機感を示した。加えて「命があつて健康であれば、経済を回す方法はいくつもある。国や県がどういうキャンペーンをやろうが、むつ市は市民を守る責務がある」と話した。

2020/7/14 東奥日報

# 周辺断層の評価了承

## 規制委 東北電東通原発巡り

原子力規制委員会は17日、東北電力東通原発（東通村）の新規制基準適合性を確認する審査会を開き、敷地内外にある周辺断層を震源として評価する必要があるとする東北電の主張を了承した。

2020/7/18 デーリー東北

# 「思い達成されず」むつ市長

政府の「GOTO トラベル」実施時期に疑問を呈していた宮下宗一郎むつ市長は17日、東京都発着の旅行を対象外として予定通り22日から実施する政府方針について「思いが達成されず残念だ」と述べた。23日から始まる4連休に向け、観光関連の市施設を閉鎖する方向で調整する。市役所で、報道陣に答えた。

2020/7/18 東奥日報

# 月間レポート

2020年6月

東北電力が東通原発（東通村）の新規制基準への適合性審査を申請してから6年が経過した。敷地周辺の断層に関する議論は一定の進展が見られるものの、審査のヤマ場とされる基準地震動（耐震設計の目安となる地震の揺れ）の確定には至っていない。審査はまだ序盤。再稼働の前提となる安全対策工事の完了目標（2021年度内）を実現するのは難しい状況にある。

# 一部進展もまだ序盤

## 東通原発 審査申請から6年

審査長期化の一つの要因は、断層評価だ。東北電は敷地外にある活断層「横浜断層」を地震動設定の中心と主張してきた。ただ、

原子力規制委員会からデータ不足を指摘され、昨年3月から7月にわたって追加の地質調査を余儀なくされた。これにより、昨年中に地震と津波に関して一通りの説明を終えるという東電の目標は崩れた。現在600メートルの断層について「一切山を越えていない」と主張してきた。一方、敷地の一部に延びる断層については「一切山を越えていない」と主張してきた。ただ、

2020/7/2 デーリー東北

# 経産相「大きな課題」核燃料搬出先

梶山弘志経済産業相は30日、リサイクル核燃料貯蔵（RFS）がむつ市で進める使用済み核燃料の中間貯蔵事業で、受け入れ予定の核燃料の搬出先について「検討していかなければならない大きな課題だ」との認識を示した。

梶山氏は「搬出先が今の時点でどこが妥当かは言えない」としつつ、核燃料の全量再処理が国の基本方針であるとして改めて強調した。

2020/7/11 デーリー東北

# 再処理工場など 経産相が視察へ

梶山弘志経済産業相が30日、原子力規制委員会による安全審査に事実上合格した日本原燃の使用済み核燃料再処理工場などを1日に視察するため来県した。三村申吾知事らと会談した梶山経産相は「責任あるエネルギー政策を進める」と原子力政策を堅持する姿勢を示し、三村知事は閣僚や県幹部が参加する「核燃料サイクル協議会」の開催を今後要請し、国の方針を確認していく意向を伝えた。



梶山弘志経済産業相（左手前）と会談する三村申吾知事ら（県庁）

2020/7/11 朝日新聞